

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470901248
法人名	医療法人 寛栄会
事業所名	高齢者グループホーム カメリア壺番館
訪問調査日	平成20年3月18日
評価確定日	平成20年3月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1470901248		
法人名	医療法人 寛栄会		
事業所名	高齢者グループホーム カメリア菘番館		
所在地	223-0057 横浜市港北区新羽町3954-7 (電話) 045-590-0181		
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成20年3月18日	評価確定日	平成20年3月28日

【情報提供票より】(平成20年2月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 13.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

	55,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円
	有(円)	無	
	有(300,000 円)	有りの場合	有/無
	無	償却の有無	
	朝食 250 円	昼食 350 円	
	夕食 400 円	おやつ 200 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月29日現在)

利用者人数	16名	男性	4名	女性	12名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	1名		
年齢	平均 83.6 歳	最低	67 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	カメリア診療所、楓歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ここは医療法人寛栄会の経営で老健カメリアを中心としてカメリア診療所、グループホームカメリア菘番館、式番館で構成された福祉のネットワークを持っている。老健カメリアは機能を回復してご自宅にお帰り頂く方針で、ほとんど地域の人たちである。この実績をバックに開設されたカメリア菘番館は地域での評価を得るに時間を要せず、近隣の協力で順調に利用者が入居している。ご家族の一番の気がかりは体力が衰え、医療の世話になるようになったらどうなると云った点に尽きるが、医療連携体制をとり、総合福祉の中にあるので安心と云う面は大きい。老健カメリアの有効活用に関しては、①職員の教育は研修のサイクルは確立しており、マニュアル類も老健のノウハウから完備しており、持続性についても安心出来る体制があり、サービスにもムラが無く安心である。②老健内に所属する音楽療法士が週1回来て実施してくれている。③カメリアシアターで定期的に上映会がある。④老健の管理栄養士がカロリー計算をした献立を基にしており食生活も安心である。⑤法人全体で行う敬老祭や作品展などはご近所の方たちと一緒に楽しんでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>この1年間は医療連携体制に伴うターミナルケア対応につき、職員と共に検討してきた。ターミナルケア対応者の実例に伴い、主治医に相談し、専門病院で精密検査を受け、治療方針を専門病院から伺い、ホームでのやるべきことを伺い、24時間対応の先生の紹介を受け、その先生とケアの方針を決め、職員と共に対応してきた。ケア中の職員の役割も先生に指導を受け、職員としてやるべきことを理解出来た。職員もようやく不安から前向きなケアに自信が芽生えてきたところで今後経験を育みつつケアに向かう心構えで取り組んでいきたいと考えている。</p>
	<p>② 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の外部評価については、自己評価表渡して全職員に記入してもらったものを管理者が纏める方向とした。職員が自分の言葉で記入することにより、初心にかえってやるべき項目を確認出来ると同時に自分の役割を認識する良い教育の場と考えている。プロセスでの気付きや指摘事項、評価の結果については改善策を立てて取り組むことにしている。</p>
重点項目	<p>③ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議については2月21日に実施した。港北区として自治会長さん、及びグループホームに文書で運営推進会議への協力を呼びかけて頂いたのでスムーズな開会が出来た。メンバーは利用者本人、ご家族、連合町内会長、新羽地区社会福祉協議会長、民児委員長、北新羽町内会長、家主(地域代表)、協力医療機関、法人本部長、ホーム管理者、ホーム看護師でオブザーバーとして地域包括支援センター、老健の看護師と錚々たるメンバーであり、非常に多方面の方が参加されているので地域密着のために活用して行きたい。なお、近所のグループホームのホーム相互参加で情報交換がなされている。会は今回菘番館、式番館を分けて同じ日に連続して実施したが、今後は開催についても工夫して行きたいと考えている。</p>
重点項目	<p>④ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族は協力的である。ご家族への利用者さんに関する情報や、健康状態については来訪時やお電話でお知らせする他、毎月請求書と一緒に「カメリア菘番館たより」をお送りし近況をお知らせしている。「カメリア菘番館たより」は職員に書いてもらい管理者に相談した上で送っている。職員に書いてもらうことにより利用者を見る目及び文章力のアップを狙っている。内容は分かりやすく楽しく書くように指導している。</p>
重点項目	<p>⑤ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との連携を心がけている。理美容院やレストランは地域の商業施設を活用する他、病院もカメリア診療所(内科)に無い診療科目については地元の医院を活用している。中学生は体験学習で老健に大勢来るのでグループホームには3~4人程度が訪れ、エアコンの掃除や草むしりなど一緒にやっている。小学校は児童が来る他、運動会などへ招待を受けている。町のお祭りや行事には招待され参加している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	カメラ壺番館として、地域に開かれたホーム作りをすることを理念に掲げている。		理念を基に、ご入居者・ご家族が、地域の中で安心して生活していけるよう今後も努力して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲げることにより、常に理念を確認し、共有・実践できるようにしてる。		玄関にいつも掲げてあることで、意識しなくなっているということも考えられるので、月に一度理念を確認する日を設けたいと考えている。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会、町のお祭りや行事等に招待していただき参加している。理美容院やレストランは地域の商業施設を活用する他、病院もカメラ診療所(内科、脳神経科)に無い診療科目については地元の医院を活用している。中学生は体験学習で老建に大勢来るのでグループホームには3~4人程度が訪れ、エアコンの掃除や草むしりなど一緒にやってくれている。		隣近所の方々との交流を大切に、今後も積極的に地元の行事に参加し、交流を深めて行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価について職員に意義を伝えた上で、自己評価の話し合いを持った。自己評価表渡して全職員に記入してもらったものを管理者が纏める方向とした。職員が自分の言葉で記入することにより、初心にかえってやるべき項目を確認出来ると同時に自分の役割を認識する良い教育の場と考えている。		自己評価を行うことで、職員の間意識の統一に役立てて、ご家族様アンケートや、評価の結果を今後活かす材料としている。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については2月21日に実施した。港北区として自治会長さん、及びグループホームに文書で運営推進会議への協力を呼びかけて頂いたのでスムーズな開会が出来た。概ね2ヶ月に1回の割りで開催し、地域の代表者、ご入居者様、ご家族様代表の方々に出席していただき、皆様から意見を頂戴した。		改善点について、相談・話し合いを行い、対応策を検討する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と連絡や相談を密にとり、連携を図りながらサービスの質の向上に取り組んでいる。生活保護受給中の方は、担当ケースワーカーとの連携を決めている。		市町村担当者に広い視野から見た助言をもらい、サービスの質の向上に役立てて行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度「カメリア壺番館便り」として、ご入居者様個々の様子、おこずかいの使用状況、行事参加などの報告を、職員に書いてもらい管理者に相談した上で送っている。職員に書いてもらうことにより利用者を見る目及び文章力のアップを狙っている。内容は分かりやすく楽しく書くように指導している。	○	職員の異動等に関する報告は、今まで行っておらず、方針を検討したいと思います。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や3ヶ月ごとのケアプランのご説明のときに、ホームに対する要望を伺うようにしてる。意見やご不満を気兼ねなくお話していただけるように、お会いするときには、コミュニケーションを大切にしている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	契約更新のときなど面談をし、不満不安がないか聞き取りを行っている。代わる場合は適切な人材を確保し、入居者様への対応の不足がないようにしてる。		離職を防ぐ為に、退職を思ったときに十分話し合いをし、今後の体制に十分活かせるようにして行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人を含めた新人研修があり、隔月で学習会も実施しています。それぞれのスキルにあった、外部の研修へ参加の機会を設けています。夜間緊急対応時のグループホーム独自の勉強会を行っている。	○	今後も老健施設との連携を図りながらも、グループホーム独自のトレーニングをして行きたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内のグループホームとの交流の機会が多くあります。運営推進会議では、近隣のグループホームの管理者にも出席していただき、助言を受けている。	○	運営推進会議などの機会以外にも、情報交換や勉強会などの活動を通じて交流の機会を設けたいと思っている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を設けており、ご本人・ご家族が納得してからの利用が出来るようにしている。いろいろな面で「老健カメラ」との連携と有効活用を図っている。		入居直後はなるべく、面会に来ていただくことでご入居者様の不安感を取り除き、ご家族様にもホームの雰囲気早く慣れていただきたいと考えている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活をしているという意識で接しており、それぞれの方の得意分野を活かして、生き生きとした生活を送っていただいている。人生の先輩として、尊敬の気持ちを忘れずに今後も語らいの時間を大切にしていきたいと考えている。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々接している中から探っていくと同時に、意向・希望を表せる方は、まず、よくお話し受け止めるようにしている。希望や意向が口に出していえる方、いえない方、それぞれの様子を注意深く観察し、出来る限り把握する努力をしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご入居者様、ご家族様、職員間で話し合い介護計画を作成している。地域の資源活用の項目も、組み入れるようにしている。個別性のある介護計画を作成し、ご家族様に同意を頂いている。計画書の同意を頂く際にも、ご意見をお聞きするようにしている。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月を見直しの期間としているが、変化に応じて介護計画の変更を行っている。その方にあったケアのために、介護計画も状態・状況にあわせ、臨機応変に対応できるように見直しを行っている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体験入居期間を設けており、ご入居者様やご家族様が納得・安心してから、本入居に移れるよう支援している。いろいろな面で「老健カメリアとの連携と有効活用を図っている。		今後も体験入居を行い、入居前の不安感を少なくし、生活の場として、安心していただけるよう努力して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を確認し、かかりつけ医を決定している。定期的に受診できるよう援助をしている。かかりつけ医にもグループホームでの生活上の注意点について、相談出来るようにしている。		ご家族様が病院に付き添う受診の際には、日頃の様子が伝わりやすいように、わかりやすく状態を示したものをお渡しするようにしている。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の生活や医療に対する考え方について、入居当初より確認している。ホームの終末期の方針は文書にし、ご家族様にご説明してある。		開所から丸三年たち、今後終末期へ移行する方も考えられる。ご家族、職員共に意識の統一をしておく必要があると考えている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に十分注意し、記録の取り扱いに気をつけている。自尊心を傷付けるような、安易な言葉かけや対応はしないよう、心掛けている。		朝夕の申し送り時はリビングで行っているため、個人名は出さず部屋番号で行っている。ご入居者と個人的な話をする場合は、本人の部屋でするなどし、プライド・プライバシーを守るようにしている。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先することなく、ご入居者様の意思を尊重し、生活していただいている。無理に強制するようなことは、無いようにしている。		他のご入居者との関わりも大事なので、レクリエーションなどへの誘いは、参加してみたいと思っていただけるような言葉かけや、雰囲気作りをするように心掛けている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者様個人の得意なこと、出来ることを活かしてもらい、調理や盛り付け、配膳下膳、洗い物などをおこなっていただき、食への関心を高めていただいている。職員とご入居者様は一緒に食事をとり、楽しく美味しく食べられるような雰囲気作りにも配慮するようにしている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご入居者様の希望に合わせられるよう、午後2時から8時までの間で、毎日の入浴が可能である。入浴拒否がある方はタイミングを見て何度かお誘いし、気分良く入浴できる時を探るようにしている。早目の入浴や遅めの入浴、それぞれにご要望があり、それぞれに楽しんで入浴している。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や特技を活かした役割で、毎日の生活に張り合いや喜びを持っていただき、散歩やレクリエーションなどで楽しみや気晴らしをして頂いている。何かしていただいた時には十分にお礼を伝え、プラスの感想を述べ、やる気を持って物事に取り組めるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日中ホーム内で過ごすのではなく、毎日の散歩により、外の空気を楽しんでいただいている。ご入居者によっては、お一人で散歩に行かれる方もいる。出掛けたいと強く希望される方は、個別に買い物に出るなど支援している。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上から夜間のみ施錠を行っているが、日中は開放しており自由に入出入りが出来るようになっている。ご入居者への心理的圧迫は少ないと思う。鍵を掛けないことで、無届け外出につながらないように、ご入居者の動向、様子に気を配るようにしている。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署にご指導いただき、年2回の防災訓練、消火訓練を行い、緊急時にスムーズに避難、誘導ができるよう心掛けている。訓練時にはご入居者にも参加していただき、災害に対する意識を高めていただいている。	○	防災訓練には火災や地震など、あらゆる状況を想定して行っていきます。災害時用の物品も準備していきたいです。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは同一法人の管理栄養士が作成し、メニューを基に、ひとりひとりに合った調理法へ変更するなどして、対応している。毎食時やおやつ時以外にも、入浴後なども水分補給を行い脱水に注意している。食事の摂取量のチェックを実施している。制限食や食事形態の変更にも、対応している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事等の思い出の写真を飾り付け、ご入居者様で楽しめるようにしている。生活のリズムにあわせ、昼夜の採光や照明に配慮している。自然に囲まれ季節感があり、ホーム内からも楽しまれている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンとクローゼット以外のものは、全て持ち込んでいただいています。仏壇を含め、馴染みの物や使い慣れた物をご自宅から持ってきていただき、居心地の良い空間作りに努めている。動物を飼育している方もいる。		お部屋は使い慣れたもの、好みのものを持ち込みいただき、自由に使用してもらっていますが、生活に危険がないように配置に注意することもあります。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	高齢者グループホーム カメリア壱番館
所在地 (県・市町村名)	223-0057 横浜市港北区新羽町3954-7
記入者名 (管理者)	藤巻 愛
記入日	平成20年2月29日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	カメラ壺番館として、地域に開かれたホーム作りをすることを理念に掲げています。		理念を元に、ご入居者様・ご家族様が、地域の中で安心して生活していけるよう今後も努力していきたいです。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲げることにより、常に理念を確認し、共有・実践できるようにしています。		玄関にいつも掲げてあることで、意識なくなっているということも考えられるので、月に一度理念を確認する日を設けたいと思います。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関に理念を掲げることにより、来訪時に見ていただけるようになっています。ご見学の方々にも、理念を説明するようにしています。		理念のパンフレットへの掲載、運営推進会議の場での発表で、知っていただく機会を増やしていきたいです。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中、ゴミ出し、洗濯物を干すとき取り込むとき等、日常的な場面での挨拶や会話を大切にしています。隣家の方に好意で野菜を頂くこともあります。		犬の散歩中に立ち寄ってくださる方もいて、ご入居者様と親しく関わって頂いています。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会、町のお祭りや行事等に招待していただき参加しています。		隣近所の方々との交流を大切にし、今後も積極的に地元の行事に参加し、交流を深めていきたいです。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の救急救命講座に参加しています。		グループホーム主催の認知症ケア・介護教室等を開催していきます。知識や技術をいつでも提供しています。
---	--	--------------------	--	---

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価について職員に意義を伝えた上で、自己評価の話し合いを持ちました。初心に戻る良い機会として、前向きに取り組みました。		自己評価を行うことで、職員間の意識の統一に役立てて、ご家族様アンケートや、評価の結果を今後活かす材料としています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、地域の代表者、ご入居者様、ご家族様代表の方々に出席していただき、皆様から意見を頂戴しました。		改善点について、相談・話し合いを行い、対応策を検討します。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と連絡や相談を密にとり、連携を図りながらサービスの質の向上に取り組んでいます。生活保護受給中の方は、担当ケースワーカーとの連携を決めています。		市町村担当者に広い視野から見た助言をもらい、サービスの質の向上に役立てていきたいです。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人本部の学習会等に参加し、成年後見制度・権利擁護事業・個人情報保護等について学んでいます。		ご家族様が近くにいないご入居者様などについて、制度を活用できるように検討していきたいです。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人本部の学習会等に参加し、虐待について学んでいます。		今後も新しい情報を、学習会やニュースなどから吸収し、心に余裕を持って対応していきたいと思えます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書をご説明するときは、わかりやすい表現に言い換えながら行い、そのつど不安に思うことや疑問点を確認しています。		当日にお会いしてご説明する以外にも、何かあれば電話など、いつでも連絡をくださるよう働きかけています。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中などから、要望・苦情などを汲み取り、対応するようにしています。外部の苦情受付を提示・案内しています。		意見、不満などを気軽に職員やご家族様、外部へ表せるような雰囲気を作っています。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度「カメラ壺番館便り」として、ご入居者様個々の様子、おこずかいの使用状況、行事参加などの報告を、ご家族様に行っています。	○	職員の異動等に関する報告は、今まで行っておらず、方針を検討したいと思います。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や3ヶ月ごとのケアプランのご説明のときに、ホームに対する要望を伺うようにしています。		意見やご不満を気兼ねなくお話していただけるように、お会いするときには、コミュニケーションを大切にしています。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	疑問や不満、不安はそのつど伝えてもらうようにしています。申し送り時やフロア会議などでも、意見や提案を積極的に挙げてもらうようにしています。		話しやすい雰囲気作りや、定期的に行うフロア会議で、みんなで話し合い、決めていくようにしています。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その日の状況により調整は可能であり、前もってわかれば業務内容なども調整して対応できるようにしています。		開設3年が経ち、ご入居者様にも変化がでてきており、今後も柔軟に対応していきたいです。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	契約更新のときなど面談をし、不満不安がないか聞き取りを行っています。代わる場合は適切な人材を確保し、入居者様への対応の不足がないようにしています。		離職を防ぐ為に、退職を思ったときに十分話し合いをし、今後の体制に十分活かせるようにしたいです。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人を含めた新人研修があり、隔月で学習会も実施しています。それぞれのスキルにあった、外部の研修へ参加の機会を設けています。	○	夜間緊急対応時のグループホーム独自の勉強会を行うなどしています。今後も老健施設との連携を図りながらも、グループホーム独自のトレーニングをしていきたいです。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内のグループホームとの交流の機会が多くあります。運営推進会議では、近隣のグループホームの管理者に出席していただき、助言を受けています。	○	運営推進会議などの機会以外にも、情報交換や勉強会などの活動を通じて交流の機会を設けたいと思います。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	人員の確保を行い、無理のないシフト作りをしています。年2回納涼会、忘年会を実施し、楽しめる機会を設けています。		福利厚生施設の案内などを用意しており、職員の利用を勧めています。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己の目標設定や自己評価、上司からの助言の項目を取り入れたチャレンジシートを活用しています。		普段の勤務している様子や、チャレンジシートから読み取れる意欲などから、個々にあった関わりを心がけ、向上心を持って働けるように努めています。

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	特に入居前は、必ずご入居者様本人からもご意向を聞く機会を設け、不安や要望を受け止められるようにしています。		少しでも不安を少なくし入居日を迎えることが、ご入居者様本人の快適な生活への第一歩だと考えています。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談開始時から、ご家族様の困っていること、不安なこと、求められていること等を面接時、電話などで時間をかけお聞きするようにしています。		なにかあれば、どんなことでも連絡を下さるように伝え、話しやすい雰囲気作りをするようにしています。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お問い合わせについては、まず第一にご家族様の要望を確認し状況に応じて、同一法人の老人保健施設入所を含めての検討を行っています。		グループホームを含め、どのサービスを利用するのが適切なのか一緒に考えられるようにしています。

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を設けており、ご本人様・ご家族様が納得してから利用が出来るようにしています。		入居直後はなるべく、面会に来ていただくことでご入居者様の不安感を取り除き、ご家族様にもホームの雰囲気に早く慣れていただきたいと思います。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活をしているという意識で接しており、それぞれの方の得意分野を活かして、生き活きたした生活を送っていただいています。		人生の先輩として、尊敬の気持ちを忘れずに今後も語らいの時間を大切にしていきたいです。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時、変化があったとき、お便りなどでこまめに状況をお伝えし、情報や問題の共有をした上で、協力してご入居者様の生活を支えています。		職員、ご家族様が、協力や理解をしあい入居者様を支えていることを忘れずにいたいと考えています。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの関係性を把握し、それぞれのご家族に合うように対応しています。		面会、外出、外泊、お手紙、電話などのつながりの大切さを理解し、支援しています。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人情報保護に配慮しながら、これまでの人間関係が続くよう努めています。家具や茶碗の持ち込みや、ご友人等の面会も積極的に行っていただいています。		なじみの人や場との継続した関係の大切さを理解し、来訪者なども温かく迎えるようにしています。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご入居者様同士の関係を配慮しつつ、リビングで過ごす時間の中で仲間意識を持っていただけるように、役割を持つことで仲間の一員である意識していただくようにしています。		具体的には、ご入居者様同士がコミュニケーションをとりやすい様仲介すること、レクリエーションなどでの楽しい雰囲気作りをしています。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス提供が終了する場合も、ご家族様と十分に相談し、入居者様の状態に適した退去先をご案内できるようにしています。		今後も何かあったらいつでも連絡をください、とお伝えし柔軟な姿勢を保つようにしています。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々接している中から探っていくと同時に、意向・希望を表せる方は、まず、よくお話し受け止めるようにしています。		希望や意向が口に出していえる方、いえない方、それぞれの様子を注意深く観察し、出来る限り把握する努力をしています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りや、過去の生活歴・家族構成を記入するシートを利用しています。		入居後も日々お過ごしの様子や、ご家族様からの情報で、これまでの暮らしの把握に努めています。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録、申し送りなどを活用し、情報の共有化をはかり、個人個人の可能性を探っています。		個人の暮らしを把握した上で楽しみや役割、安心感など個別に対応するように心掛けています。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご入居者様、ご家族様、職員間で話し合い介護計画を作成しています。地域の資源活用の項目も、組み入れるようにしています。		個別性のある介護計画を作成し、ご家族様に同意を頂いています。計画書の同意を頂く際にも、ご意見をお聞きするようにしています。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月を見直しの期間としているが、変化に応じて介護計画の変更を行っています。		その方にあつたケアのために、介護計画も状態・状況にあわせ、臨機応変に対応できるように見直しを行っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を詳細に個人ファイルに記録しています。申し送りや連絡帳で情報の共有をしています。		申し送りやフロア会議など、そのつど個別対応について話し合い、介護計画作成や実践に役立てています。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体験入居期間を設けており、ご入居者様やご家族様が納得・安心してから、本入居に移れるよう支援しています。		今後も体験入居を行い、入居前の不安感を少なくし、生活の場として、安心していただけるよう努力していきます。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の方に、シルバー体操指導のボランティアに来ていただいています。防災訓練時には、消防署の協力を得て指導を受けています。		無届外出など緊急を要する場合は、地域資源に協力をいただいています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、他のサービスの活用を検討していきます。		他のサービスにどんなものがあるか、今後提案する為にも勉強していきます。特に終末期ケア実践のために、訪問看護との連携を図っていきたいです。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ご入居者様の状態に合わせた適切なサービスのため、地域包括支援センターから助言などを受け、総合的に援助しています。		今後も定期的に連絡を取り、協力していきます。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居時に希望を確認し、かかりつけ医を決定しています。定期的に受診できるよう援助をしています。かかりつけ医にもグループホームでの生活上の注意点について、相談出来るようにしています。		ご家族様が病院に付き添う受診の際には、日頃の様子が伝わりやすいように、わかりやすく状態を示したものをお渡しするようにしています。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	同一法人の心療内科の医師と相談しながら、対応しています。		医師との協力・治療も大切にしたいうえで、職員の提供するケアについても常に話し合い、状態に応じたケアを提供していきたいです。
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同一法人の看護師と常に連絡を取れ、相談しやすい体制になっています。		夜間も看護師と連絡が取れ、ご入居者様の安心に繋がっていると思います。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先への情報提供を行い、病院での生活に役立ててもらっています。こまめに病院関係者と連絡を取りながら、状態の把握に努めています。退院時にはMSWより情報収集しています。		退院後の生活の為、生活リハビリを継続していただけるよう依頼をしております。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の生活や医療に対する考え方について、入居当初より確認しています。ホームの終末期の方針は文書にし、ご家族様にご説明してあります。		開所から丸三年たち、今後終末期へ移行する方も考えられます。ご家族様、職員共に意識の統一をしておく必要があると考えています。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の過ごし方はご入居者様・ご家族様・かかりつけ医・職員とで十分に話し合いをして、今後についての方針を決めています。	○	重度化や終末期は関係者にとって不安が多い項目です。個人個人で様々なことなので、どのように協力していくか、どのように支えていくかを十分に話し合うようにします。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活の違いを最小限に抑えられるよう、関係者での話し合いを、十分に行うようにしています。		移り住む先やご入居者様・ご家族様の不安が軽減されるよう、情報提供を十分に行い、その後の相談なども快く受けられるようにします。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			日々の申し送り時は職員が行って、そのため、個人々は

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に十分注意し、記録の取り扱いに気をつけています。自尊心を傷付けるような、安易な言葉かけや対応はしないよう、心掛けています。		朝夕の申し送り時はリビングで行っているため、個人名は出さず部屋番号で行っています。ご入居者様と個人的な話をする場合は、本人の部屋ですするなどし、プライド・プライバシーを守るようにしています。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	要望を言いやすい雰囲気作りをし、要望は否定せず受け止めます。個人により説明の仕方を変え、ご本人が自己決定しやすいように支援しています。		細かいことでは、入浴前の着替えの準備は出来るだけご入居者様本人にしてもらい、着たい洋服を選んでいただくなどしています。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先することなく、ご入居者様の意思を尊重し、生活していただいています。無理に強制するようなことは、無いようにしています。		他のご入居者様との関わりも大事なので、レクリエーションなどへの誘いは、参加してみたいと思っていただけるような言葉かけや、雰囲気作りをするように心掛けています。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的美容院で希望のカット・パーマ・カラーを行い、床屋では髭剃りもお願いしており、皆様さっぱりとされています。		美容院・床屋に行く機会を不満なく、楽しまれています。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者様個人の得意なこと、出来ることを活かしてもらい、調理や盛り付け、配膳下膳、洗い物などをおこなっていただき、食への関心を高めていただいています。		職員とご入居者様は一緒に食事をとり、楽しく美味しく食べられるような雰囲気作りにも配慮するようにしています。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	生活の中の個別の楽しみであり、希望する方には積極的に支援しています。		楽しみになる一方、嗜好品ばかりを好むことや、健康上問題が出てしまうこともあり、ご入居者様・ご家族様と話し合いながら、適量を提供していきたいと考えています。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	すぐにパットやリハビリパンツの使用をするのではなく、まずは排泄のパターンを掴み、タイミングの良い声かけから始めるようにしています。		排泄を気持ちよく行っていただく為、誘導などをする際には、プライバシーを大切に、自尊心を傷つけないように十分配慮をするようにしています。
	○入浴を楽しむことができる支援	ご入居者様の希望に合わせて、午後2時から9時まで		

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人八居有様の希望に合わせて、午後2時から8時までの間で、毎日の入浴が可能です。入浴拒否がある方はタイミングを見て何度かお誘いし、気分良く入浴できる時を探るようにしています。		早目の入浴や遅めの入浴、それぞれにご要望があり、それぞれに楽しんで入浴されています。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝具は常に清潔に保ち、照明や室温なども調整しています。		職員の行動が、安眠・安息の邪魔にならないよう、音や照明などに注意しています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や特技を活かした役割で、毎日の生活に張り合いや喜びを持っていただき、散歩やレクリエーションなどで楽しみや気晴らしをしていただいています。		何かしていただいた時には十分にお礼を伝え、プラスの感想を述べ、やる気を持って物事に取り組めるよう支援しています。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安心感が持てることから、ご入居者様ご自身でお金を所持している方もいらっしゃいます。希望に応じ職員と買い物に行き、楽しまれています。		長年親しんできた財布やお金が手元に無いことで、不安を訴える方もおり、納得・安心への言葉かけを心掛けています。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日中ホーム内で過ごすのではなく、毎日の散歩により、外の空気を楽しんでいただいています。ご入居者様によっては、お一人で散歩に行かれる方もいらっしゃいます。	○	出掛けたいと強く希望される方は、個別に買い物に出るなど支援しています。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食会などを実施し、楽しんでいただいています。遠方への外出を希望される方は、その旨をご家族様にお伝えするようにしています。	○	外出への支援はまだ消極的なところがあり、ご家族様や地域の方々に協力していただき、実施に向けた取り組みをしていきたいです。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご入居者様の希望に沿い、ホームの電話を使用いただいています。		ご入居者様が外部の方との交流が維持できるよう、今後も希望に沿い、対応していきます。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に特に制限はありません。訪問時は玄関でのお出迎えお見送り、お茶出しなど、笑顔で接するように心掛けています。		また来たいな、とっていただけるように、気持ちの良い対応をしていきたいです。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の行為を理解しており、現在拘束は行っていません。		身体拘束についての意識を高め、工夫したケアを実践していきたいです。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上から夜間のみ施錠を行っているが、日中は開放しており自由に出入りが出来るようになっていました。ご入居者様への心理的圧迫は少ないと思います。		鍵を掛けないことで、無届け外出につながらないように、ご入居者様の動向、様子に気を配るようにしています。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご入居者様の所在や様子はさりげなく、常に気を配り、危険が無いか注意しています。		ご入居者様に束縛されているような印象を与えないよう、自然に所在や様子の確認を行うよう心掛けています。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活の場に物が置いてあるのは当たり前と考えているので、個数、保管場所、管理方法等を明確に取り決めて対応しています。		個人で所有されているものは、注意の必要な物品を正しく使用できているか気をつけ、取り扱いの注意を伝えるようにしています。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のため一つ一つに注意し、それぞれの状態に応じて対応をしています。		一人ひとりの状態の把握や、ヒヤリッハット後のカンファレンスの活用などを行っています。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを作成し、対応しているシュミレーションを行い、流れを確認する勉強会を行いました。		救急救命訓練などの訓練に定期的に参加し、緊急時対応への知識、技能を高めていきたいです。
	○災害対策	消防署や消防団、地域の消防団との連携訓練、消防訓練を		

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者に指導いただくに、年2回の防災訓練、消火訓練を行い、緊急時にスムーズに避難、誘導ができるよう心掛けています。訓練時にはご入居者様にも参加していただき、災害に対する意識を高めていただいています。		防災訓練には火災や地震など、あらゆる状況を想定して行っています。災害時用の物品も準備していきたいです。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご入居者様の状態や状況をご家族にお伝えし、現状を理解していただくと共に、リスクに対してのこちらの姿勢を示し、話し合うようにしています。		リスクを怖がってばかりいると何も出来なくなってしまうため、リスクを理解し対応を話し合うことが大切だと考えています。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルサインのチェック、食事量のチェック、日々の様子などから体調変化に気づけるよう努めています。異常を発見した場合は、看護師への相談、病院受診などの手続きを速やかに行っています。		記録に経過を残していることで、情報の共有と的確な判断をする材料となっています。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は基本的に職員で管理しているものの把握にも努めています。内服薬を使用するときにピルブックで確認し、目的や副作用など、確認する機会を持つようにしています。		定期受診の際に、毎日の様子や気になることを医師へ伝え、内服薬へ対する支援をしています。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘による体調不良や精神不安定が見られるので、多目の水分補給や毎日の牛乳、散歩や体操、腹部マッサージで対応しています。		出来るだけ自然な形で排便ができるように支援しています。困難なときは看護師や医師に相談し、薬を使用することもあります。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きの声かけや介助など、その方の必要に応じて対応しています。義歯の方には、夜間のポリデント洗浄を行っています。		口の中の汚れや臭いは、健康や人間関係にも影響を及ぼすので、気をつけて支援しています。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは同一法人の管理栄養士が作成し、メニューを基に、ひとりひとりに合った調理法へ変更するなどして、対応しています。		毎食時やおやつ時以外にも、入浴後なども水分補給を行い脱水に注意しています。食事の摂取量のチェックを実施しています。制限食や食事形態の変更にも、対応しています。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	それぞれの感染症にマニュアルが用意されており、それにより対応しています。		手洗いうがいの励行、換気、予防接種、ウルトラ次亜ソフ水の活用しています。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	2日に1回の割合で買出しに行き、新鮮な食材を使用しています。調理器具や冷蔵庫内なども夜間に消毒を実施し、衛生管理に努めています。		賞味期限、使用期限に注意し、食材を新鮮なうちに使いきれるよう、メニューの工夫も行っています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	畑や鉢植えを活用し、家庭的な雰囲気になるよう配慮しています。玄関はいつも花が飾ってあり、素敵なお玄関になっています。		玄関周りの清掃や鉢植えの手入れに気を配り、開放的で親しみの持てるような空間作りに努めています。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事等の思い出の写真を飾り付け、ご入居者様で楽しめるようにしています。生活のリズムにあわせ、昼夜の採光や照明に配慮しています。		自然に囲まれ季節感があり、ホーム内からも楽しまれています。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブル席、畳スペースを用意しており、それぞれが自分のペースで過ごしていただいています。		畳で横になったり、テーブルの席で顔をくっつけるように談笑していたり、ソファでテレビを真剣に見たりと、思い思いに過ごされています。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンとクローゼット以外のものは、全て持ち込んでいただいています。仏壇を含め、馴染みの物や使い慣れた物をご自宅から持ってきていただき、居心地の良い空間作りに努めています。動物を飼育している方もいらっしゃいます。		お部屋は使い慣れたもの、好みのものを持ち込みいただき、自由に使用してもらっていますが、生活に危険がないように配置に注意することもあります。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>時間を決めて窓開閉による換気を行っています。湿温計を確認したり、ご入居者様からの希望もお聞きし、エアコンなども使用しています。</p>		<p>ウルトラ次亜ソフト水の空気中噴霧などを行い、消臭にも配慮しています。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーの作りになっており、手すりや、スロープなどが各所に設置してあります。エレベーターもあり、階段昇降が困難な方に使用していただいています。</p>		<p>手すりのないリビングや部屋などの広い空間は、ベッドやテーブルの位置にも配慮し、つかまりながら歩くことが出来るようにするなど工夫しています。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>個人に合わせた声の掛け方などを工夫し、成功体験を増やしていけるよう援助しています。</p>		<p>失敗体験はさりげなくフォローし、個々の力の発揮の手助けをしています。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダや外回りは自由に入出りできるようになっています。家庭菜園やプランターでの花、野菜作りで世話や収穫などを楽しんでいただいています。</p>	○	<p>家庭菜園に力を入れてやっていきたいと考え、時季の活動を計画中です。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

緑に囲まれており、季節感たっぷりの散歩コースを、毎日楽しく歩いていただいています。ホームの周囲には、桜や梅や柿の木があり、窓の外の景色からも季節の移り変わりを十分に感じられます。鉢植えやプランター、庭の畑作りなども、草木の生長を愛で自然に触れる良い機会となっています。ご入居者様へのケアの提供では、ホーム内での勉強会に加え、法人内の学習会への出席、グループホームカメラ式番館との情報交換を通して研鑽に努めています。ご入居者様への余暇活動にも力を入れており、楽しみや気分転換になるよう、行事の企画や実施をしています。大きな行事としては椿祭(敬老祭)があり、ご家族様や地域の方々にも参加していただき、屋台や出し物を楽しんでいただいています。月々の行事は、季節の催し物(節分・ひな祭り・クリスマスなど)や老人保健施設カメラでの映画鑑賞会、近隣への外食会があります。その他にお誕生日会があり、ご入居者様それぞれの誕生日当日に会を実施することで、スペシャル感を出せれば、と考えて行っています。週に1回、法人本部の協力で音楽療法を実施しており、毎週月曜日の習慣として定着しています。月に2回シルバー体操のボランティアの方に来ていただき、指導をお願いしています。体を動かすことは、ご入居者様の体力維持と気分転換に大変役立っています。これらの行事や歌の会、体操の機会を活かし、メリハリある毎日を送っていただけるよう支援しています。